



埼玉の社叢

八潮市八条八幡神社社叢ふるさとの森

八潮市八条四〇六九

地名の「八条」は、古代・中世まで武蔵国と下総国の国境になっていた利根川（現在の中川）右岸の自然堤防上に遺構が確認される古代条里に由来するとされる。

平安末期から鎌倉期には、源頼朝が神宮に寄進した大河戸御厨の内八条郷にあたり、この八条郷の地頭職となった渋江光衡は八条を本貫地として八条五郎光平と称した。以来八条氏は当地に館を構え、十五世紀中頃までかわりがあったという。

当社は社伝によると、宝徳元年（一四四九）に山城国の男山八幡宮（石清水八幡宮）を勧請したとも、或いはこの時、氷川社久伊豆社八幡社を合祭したとも伝える。

また、先の八条氏と入れ替わるように扇谷上杉朝顕が八条に館を構え、八条上杉を称したようである。朝顕の曾孫、八条近江守房繁は、馬術の達人として独自の流儀「八条流」を成した。八条流馬術は、江戸期には徳川家を始め各藩に普及した。明治四十二年、当社に合祀された宇入谷にあった八条神社（八条殿社）は八条上杉氏を祀る神社で、同社の旧杜家であった新井家は「紙本着色八条房繁像」を所蔵する。当社の社叢は、昭和五十九年三月にふるさとの森に指定された。林相は主にケヤキ・イチヨウ・シラカシ・クスノキなどから構成され、樹齢五百年とも伝えられるイチヨウやスタジイ、三百年近いケヤキなどの大木も多い。中でも神社北隅の大イチヨウは、鶴岡八幡宮から流れてきたという伝承が残る。